

CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 総合性能評価システム 建築環境総合性能評価システム 名古屋版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西区則武新町1丁目マンション新築工事	階数	地上6F
建設地	名古屋市西區則武新町一丁目1521番	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	56 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年12月8日
敷地面積	2,129 m ²	作成者	
建築面積	1,199 m ²	確認日	2022年12月8日
延床面積	4,018 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE ★☆☆☆☆ A ★★★★★ B ★★★★★ B- ★★★★★ C

★: S ★★★★★ A ★★★★★ B+ ★★★★★ B- ★★★★★ C

BEE=1.0
環境品質 G
環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 92 (kg-CO₂/年・m²)
②建築物の取組み 46 (77%)
③上記②以外の 77%
④上記② オフサイト手法 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境
Q2 サービス性能
Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 外皮断熱等級4、一次エネルギー消費量等級5を満たす省エネ性能の良い設計になっている。低木から中・高木まで様々な種類の植物を建物周りに植えており、自然・季節感の感じられるつくりになっている。		
Q1 室内環境 窓により室内に自然光を十分に取込みできるようにしている。建材はF☆☆☆☆を採用し、室内の環境を向上させている。	Q2 サービス性能 階高・天井高を高くとり圧迫感の無い空間になるようにしている。外壁や室内仕上は耐用年数の長いものを採用し、長く暮らせる設計になっている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物を一周囲うように植栽を施し、周囲からの景観を良くしている。エントランス横には中・高木を植栽し、エントランス内から自然が良く見えるようになっている。
LR1 エネルギー 日本住宅性能表示基準「5-1 断熱性能等級」における等級4相当であり、熱的侵入の抑制機能が高い住宅であると言える。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上げ材が容易に分別可能な仕様となっており、部材の再利用の可能性が向上している。	LR3 敷地外環境 広告物照明を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)西区則武新町1丁目マンション新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。